

中央大学リーガル・キャリア・サポート委員会主催
業務・採用等説明会（2014年5月31日開催）

国税庁

中央大学法科大学院では、リーガル・キャリア・サポート委員会を組織し、在学生・修了生のみなさんに対して進路決定・就職に関するサポートを行っています。

今回の「業務・採用等説明会」は、国税庁の業務内容や採用について、長官官房人事課企画係長堀田陽平さんと本学法科大学院OBで豊橋税務署の大西篤史さんにお話を伺いました。大西さんは先週の講演に引き続き2週連続での登場となりました。



はじめに堀田さんから国家公務員総合職法務区分採用についてお話があり、近年の実績では、法務区分は毎年1名ずつ採用しており、全体でも法科大学院出身者が増えているとのことでした。

続いて、大西さんからご自身の経歴の紹介があり、1年目は長官官房企画課で「国税庁レポート」を作成したこと、これによって庁内の各部署が行っている仕事が理解できたこと、税制改正意見をまとめたこと、2年目は課税部審理室で国税局や法務省と連携して課税訴訟を進めたこと、裁判の判決次第で課税業務が影響を受けたこと、3年目は豊橋税務署で現場の課税業務を体験し納税者と直接話げできたこと等の体験をお話いただきました。それらの経験の中で、周りの人がどういう議論をしていて、それについて自分がどう考えるかを常に意識すべきだとのお話がありました。また、どの業務を行うにも法科大学院で培った能力が活かされたとのことでした。



続いて堀田さんから採用選考にあたってのお話がありました。組織で働く場合は、必ず人と係わりながら業務を進めていくので、コミュニケーション力と人間力が必要となる。それを面接でどのように面接官にアピールしていくかが大事で、面接官はその人のありのままの姿を見て、その上で一緒に働けるかを判断したいと思っているので、本来の自分ではなく、カッコつけることは評価されず、採用に結びつかないことが多いとのことでした。



入庁してからは、留学に行くチャンスがかなりの確率であること、英語を必要とする部署もあるが、その場合でも皆入庁後に勉強していること、総合職の場合、希望すればほぼ海外留学・勤務を経験する等のお話がありました。

最後にアドバイスとして、プロとして与えられた場所で結果を出すこと、とのお話があり、また、いろいろなバックボーンを持った人が一緒に仕事をするのは面白いと職場の楽しさを教えていただきました。

リーガル・キャリア・サポート委員会では、今後も講演会等のイベントを実施していきます。在学生また修了生のみなさん、積極的にご参加ください。